



かけはし

令和4年3月（第12号）

公益財団法人 豊島修練会

事務局：成美教育文化会館（内）

TEL: 042-471-6600 FAX: 042-473-4590

HP「成美教育文化会館」で検索

絵を描いて表現することの大切さ

2月18日～19日の2日間、会館のギャラリーを使って、豊島なでしこ幼稚園の作品展が開催されました。幼児教育で最も大切なことは、豊かな心を育むことだといわれていますが、大きな画面いっぱい伸び伸びと描かれた作品に接すると、いつもながら、観ているこちらの気持ちまでもが豊かになります。

大きな作品に取り組む活動は、全身を使って描く充実感と完成した時の達成感を味わうことができます。と同時に、集中力を養うこともできます。大きなものや小さなもの、いろいろな種類のを配置することによって、バランス感覚や構成力を養うことができます。

「葉っぱを食べたのは」を観ていると、3匹の幼虫の、葉を盛んに食べる音が聞こえてくるようでした。子どもたちは、5月にカイコが葉を食べる様子を実際に観察しています。一人一人のこの時の思いが、それぞれの絵ににじみ出ていました。また、イメージしたものを平面の世界で表現することを通すと、感性や創造力を育むことができます。「深海探検」の作品は、そのよい例だと感じました。（もし、この絵にあるような生物と出くわしたら私はこの女の子ような笑顔にはなれそうにありませんが……。）

子どもたちの作品には、いろいろな色が使われています。一方古代の日本では、「赤、青、黒、白」の4色しか区別していなかったと考えられています。赤紫・赤・橙・黄を「赤」、青・緑を

「青」と呼んでいました。緑色の信号を「青信号」、若々しい木の葉を「青葉(あおば)」、野菜や果物のことを「青果(せいか)」というのも、その名残りといえます。「青年」の「青」はまだ熟していない果実から連想された表現で、「青二才(あおにさい)」「青春」なども同じです。真っ黒の髪の毛を「緑(みどり)の黒髪」といったり、新生児のことを「緑児(みどりご)」といったりする場合の「緑」は色ではなく、若々しいとか、つやつやしているという意味だそうです。

いろいろな色を用いて絵に表現することから、例えば「色」に関連した言葉の意味について関心を深めていくなど、これからも創作活動を楽しみながら、様々に興味を広げていってほしいものです。

(T. Y.)



▲葉っぱを食べたのは



▲深海探検